

# 研 究 報 告

○「ウェブを利用した図書館間の情報共有の研究」

阿部 浩和 委員長（加須市立加須図書館）

○「都道府県内図書館間の情報発信及び情報交換に関する調査」

調査期間：平成27年11月6日～27日

調査対象：都道府県立図書館（47館）

## ○「ウェブを利用した図書館間の情報共有の研究」

阿部 浩和委員長（加須市立加須図書館）

図書館ネットワーク専門委員会で委員長をさせていただいております、加須市立加須図書館の阿部浩和と申します。本日は、この後の宮城県図書館の眞籠聖氏、神奈川県立図書館の森谷芳浩氏の御講演に先立ちまして、図書館ネットワーク専門委員会から今年度の活動報告と研修会に至るまでの経過等の御報告させていただきます。



図書館ネットワーク専門委員会は、みなさん御存知のように、埼玉県図書館協会の専門委員会の1つとして活動しており、その前身は図書館システムネットワーク専門委員会でした。

ここ10年の当委員会の研究テーマを振り返りますと、御覧のとおりで、平成15・16年度は資料の保存協力体制の研究をし、保存協定を結び、平成25年度にはその内容の見直しをしたところです。

平成17年から21年度は、途中、平成19年度に「図書館と県民のつどい埼玉」の初回準備を挟んで、大学図書館や高校図書館といった館種を越えた協力の研究を進め、大学図書館との協定を結び、相互貸借可能範囲、資料選択範囲の拡大を図りました。

平成22年度から昨年度までは、新たな総合目録を構築することで、タイムラグが少なく、相互貸借の検索手順等の効率化を図れるのではないかと、その上、リアルタイムな資料の動きがわかるようであれば、相互貸借管理システムが構築できるのではないかとということなどをテーマに、必要な仕様などを研究しました。

今年度においては、「ウェブを利用した図書館間の情報共有の研究」をテーマにしました。近年の研究・研修報告については、埼玉県図書館協会のサイトにアップロードされてありますので、興味のある方は御覧ください。

さて、今年度このようなテーマにした経緯ですが、図書館ネット

ワーク専門委員会はその名の通り、「図書館ネットワーク」について調査研究と研修を行う専門委員会です。「図書館ネットワーク」とは何かと調べてみると、「図書館協力」という言葉にあたります。

では、図書館協力とはどんなものかと調べてみると、みなさんも御存知でしょうが、「図書館への社会的要求が高まり、1館ごとでは応じられない場合に2館以上が協力しあって図書館の機能を高めようとする。」で、その協力の内容によって御覧のような協力体制が図られます。その図書館協力がより多くの図書館からなる相互協力のための活動組織体が図書館ネットワークとなっております。

そこで、私は、図書館新任職員研修のときに、「簡単に言うと、人・物・情報を結びつける仕組みが図書館ネットワークで、図書館業務だ」という話をしています。というのも、例えば「人と物」では貸出返却ですし、「人と情報」を結びつけるのはレファレンス、「物と情報」という面ではMARCなどが当てはまります。「物」というのは資料のことで、資料の購入や相互貸借のための物流、資料の分担保存などがここに当てはまると考えられます。「情報」というのは資料そのものの中身も情報ですが、どこにその資料があるのか、探している情報はどうすれば見つけられるのか、必要とする資料につながる導線のための情報といったものから、図書館活動を向上させるための他館の活動についての情報まで、広く当てはまるものだと考えられます。「人」というのは、利用者、市民だけではなく、図書館職員・スタッフも含まれますし、学校等との連携も含まれるものだと考えられます。

このように「人・物・情報」ということで考えてみますと、ここ10年の図書館ネットワーク専門員会の活動は、相互貸借における物流、資料保存といった「物」についてと、総合目録や相互貸借管理システムといった「情報」についてが中心でした。そこで、今年度は、近年指定管理者制度導入などで職員が入れ替わることなどが多くなっていることや、利用者自身も広域で利用することがあるため、図書館職員同士のネットワークや情報の共有化がどうなっているかという「人」と「情報」の側面について考えていくことになりました。

もちろん、図書館職員というのは他の部署に比べて、自治体を越えた人のつながりも多く、業務に関連した次のような勉強会や研究会といった会に所属している人も多くいます。その一方で、特に図書館のことをわからないまま異動してきた職員などは、「こういう場合どうすれば良いか聞ける人がいない」「どこそこの図書館で行われているやり方のメリット・デメリットはどのようなだろう？」「隣の図書館でやるイベントの詳細を聞かれたけど、わからないなあ」といった感じで、気軽に聞ける図書館職員がいなかったり、逆にやり方が踏襲されていて、別の方法や考えが思い浮かばなかったりしていることが多いようです。

私自身も、図書館職員新任研修の時に「わからないこと、困ったことがあれば、何でも聞いて」と話していますから全く構わないのですが、受講していたのであろう図書館職員の方から「そばにいる数年でも長くやっている人に聞けば答えはすぐに出るのではないか？」「その館に直接問い合わせをすれば良いのではないか？」と思われる質問の電話が何度もあったことから、図書館職員同士のつながりや必要な情報の共有化が必要になっていると感じました。

そこで、「ウェブを利用した図書館間の情報共有の研究」を考える中で、利用者向けではない、図書館間での情報交換や情報発信、共有化がどうなっているのかということ、御覧のような点を踏まえて調査することにし、各都道府県立図書館へのアンケート調査を実施しました。

利用者向けのサイトとしては、近年、Webサイトの一部として、フェイスブックやツイッターを利用しているケースも多くみられますし、図書館のページでも市町村のページの一部となっているものから、独自サイトを持つところまで差異はありますが、そのほとんどが図書館のページを持っています。

そうではなく、図書館への情報発信がどうなっているか発信方法についてが中心の設問となっています。

アンケートの結果の詳細については年度末に埼玉県図書館協会のサイトに掲載予定の報告書を御覧いただくとして、主だった部分

を簡単に報告しますと、98%の都道府県が主催の研修において情報発信を行い、87%の都道府県が全体会を開催しており、半数以上の都道府県立図書館は市町村立図書館への巡回訪問を実施しています。

また、半数以上の都道府県立図書館は図書館用の専用サイトを開設していて、そこで図書館向けの情報発信をしています。そのスタイルは独自サイトとなっていることが多く、埼玉県においてもsainet(サイネット)と呼ばれる独自サイトや埼図協のサイトがありますが、いわゆる一般的なフェイスブックやミクシィ、ツイッターといった形はほとんど見られないようです。

そのサイトで可能な情報発信は、イベント・休館日情報と各種様式のダウンロードがほとんどのようで、設問が細かくなつたため詳細がわかりませんが、以前こちらでも講演していただきました三重県立図書館が実施していて、珍しいと感じていた地域資料のMARCのダウンロードが可能などころもありました。しかし、業務の質問やアンケートがそこで出来ると回答した館は少なめの印象です。

その活用想定がどの程度のものと考えていたのかの設問がなかったため、あまり意味をなさなかったかもしれませんが、その利用は想定外に活発となったとは言えない認識なのかと思われます。

市町村立図書館からの情報発信としては、各館で情報を発信していることが、県立図書館などが用意しているサイトなどで発信するより多いことがうかがえます。

職員研修の受入れに関しては、新館の設置のためのアドバイザー的なものを除くと、1か月以上の研修はほとんどされてないことが現状であることがわかります。1週間などもう少し短い期間の設問であれば、あるという回答があったかと思われますが、逆に1か月以上受け入れているところもあるというのは、少し驚きました。

このように、人・物・情報を結びつけるのが図書館で、地域の情報のハブとしての存在が図書館に求められていますが、人員削減されている中で、図書館同士の結びつきや情報の共有化を強固にしていけば、より一層のサービス向上が出来るのではないかと感じました。

これで、委員会報告を終わります。御清聴ありがとうございました。